

招集ご通知

第34回定時株主総会招集ご通知

議決権行使についてのご案内

株主総会参考書類

第1号議案 取締役7名選任の件

第2号議案 会計監査人選任の件

事業報告

1. 会社の現況
 2. 株式の状況
 3. 会社役員の状況
 4. 会計監査人の状況
 5. 株式会社の支配に関する基本方針
-

計算書類

監査報告

第34回 定時株主総会 招集ご通知

証券コード 5704
(発送日) 2026年3月12日
(電子提供措置開始日) 2026年3月6日

株 主 各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番5号
株 式 会 社 J M C
代表取締役社長兼CEO 渡 邊 大 知

第34回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第34回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

【当社ウェブサイト】

<https://www.jmc-rp.co.jp/>

(上記ウェブサイトアクセスいただき、メニューより

「IR情報」→「株式情報」→「株主総会」を順に選択いただき、ご確認ください。)



【株主総会資料 掲載ウェブサイト】

<https://d.sokai.jp/5704/teiji/>



【東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）】

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

(上記の東証ウェブサイトアクセスいただき、銘柄名(会社名)に「JMC」

又は「コード」に当社証券コード「5704」を入力・検索し、

「基本情報」→「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、

「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。)



なお、当日のご出席に代えて、電磁的方法（インターネット）または書面（議決権行使書用紙）によって事前に議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、2026年3月26日（木）午後6時まで議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

詳しくは、「議決権行使についてのご案内」をご確認くださいませようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2026年3月27日（金曜日）午前10時
受付開始：午前9時30分
2. 場 所 神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-8
アルカンシエル横浜 luxe mariage 6階 ルミエール
(会場が前回と異なっておりますので、末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照いただき、お間違えのないようご注意ください。)
3. 目的事項
報告事項 第34期（2025年1月1日から2025年12月31日まで）
事業報告及び計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 取締役7名選任の件
第2号議案 会計監査人選任の件

以 上

◇当日ご出席の際は、お手数ながら本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
なお、当日は午前9時30分より受付を開始いたします。

◇書面交付請求をいただいた株主様には、電子提供措置事項を記載した書面をあわせてお送りいたしますが、当該書面は、法令及び当社定款の定めに基づき、次に掲げる事項を除いております。

- ① 事業報告の「業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況」
- ② 計算書類の「株主資本等変動計算書」「個別注記表」

したがって、当該書面に記載している事業報告及び計算書類は、会計監査人が会計監査報告を作成するに際して監査をした計算書類の一部であり、また、監査役が監査報告を作成するに際して監査をした事業報告及び計算書類の一部であります。

◇電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記インターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。

◇定時株主総会終了後、株主向け会社説明会を同会場にて開催する予定です。お時間の許す株主様は引続きご出席くださいますようお願い申し上げます。

インターネットによる議決権行使のご案内

QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトにログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォンの操作方法などが不明な場合は、右記にお問い合わせください。

議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://www.web54.net>

- 1 議決権行使ウェブサイトにアクセスしてください。



- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル
電話番号：0120-652-031 (フリーダイヤル)
(受付時間 9:00~21:00)

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 取締役7名選任の件

取締役全員（7名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役7名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名	当社における地位			
1	わたなべ だい ち 渡邊 大知	代表取締役社長兼CEO	再任		
2	すずき ひろゆき 鈴木 浩之	専務取締役兼COO	再任		
3	しのざき しろう 篠崎 史郎	取締役兼CFO	再任		
4	やまざき ひろし 山崎 浩	取締役兼CHRO	再任		
5	やまざき せい たろう 山崎 晴太郎	取締役兼CDO	再任		
6	ながさか ひで き 長坂 英樹	取締役	再任	社外	独立
7	おかもと ひでとし 岡本 英利	取締役	再任	社外	独立

再任 再任取締役候補者 社外 社外取締役候補 独立 証券取引所の定めに基づく独立役員

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	保有する 当社の株式数
1	わたなべ だいち 渡邊 大知 (1974年4月2日)	1994年3月 ボクシングプロデビュ 1999年4月 当社入社 2000年9月 当社専務取締役 2004年12月 当社代表取締役社長 2013年10月 経済産業省主催 「新ものづくり研究会」委員 2019年2月 当社代表取締役社長兼CEO (現任)	1,269,400株
【選任理由】			
長年にわたり当社の代表取締役社長として、経営の重要事項の決定及び業務執行の監督に十分な役割を果たしてきたことから、今後も当社の事業拡大及び経営全般に対する適切な役割が期待できると判断したためです。			
2	すずき ひろゆき 鈴木 浩之 (1979年8月28日)	2002年11月 有限会社エス・ケー・イー設立 2006年1月 当社と合併 当社専務取締役 2019年2月 当社専務取締役兼COO (現任)	408,200株
【選任理由】			
長年にわたり当社の営業及び製造部門の責任者として、当社の全事業を牽引するとともに、専務取締役として、経営の重要事項の決定及び業務執行の監督に十分な役割を果たしてきたことから、今後も当社の事業拡大及び経営全般に対する適切な役割が期待できると判断したためです。			

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	保有する 当社の株式数
3	しのぎき しろう 篠崎 史郎 (1965年12月1日)	1988年4月 ガ德里ウス株式会社(現ABB株式会社)入社 2000年12月 ビー・エム・ダブリュー株式会社入社 2001年12月 ハドソン・ジャパン債権回収株式会社(現ハドソン・ジャパン株式会社)入社 ヴァイスプレジデント 2004年7月 ソラーレ ホテルズ アンド リゾーツ株式会社に出向財務管理本部長 2005年6月 同社取締役 2006年11月 スター・ホテル・リート・マネジメント株式会社(現ハドソン・ジャパン株式会社)に出向 2006年12月 同社取締役 2008年8月 同社リート事業本部 シニアヴァイスプレジデント 2010年2月 株式会社パノラマ・ホスピタリティ 入社 ディレクター 2011年11月 モルガン・スタンレー・キャピタル 株式会社入社 2015年2月 いちご不動産投資顧問株式会社 (現いちご投資顧問株式会社)入社 プロジェクト室長 2015年8月 同社 ホテルリート本部 管理部長 2018年1月 当社入社 経営企画室 室長 2018年3月 当社取締役 2019年2月 当社取締役兼CFO(現任)	11,500株
<p>【選任理由】 長年にわたり財務経理分野で培った知見を有し、当社の事業拡大及び経営全般に対する適切な役割が期待できると判断したためです。</p>			

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	保有する 当社の株式数
4	やまざき ひろし 山崎 浩 (1969年12月26日)	1993年4月 プリマ食品株式会社入社 2007年12月 大蔵屋商事株式会社入社 2010年1月 コムチュア株式会社入社 2012年1月 株式会社セルシード入社 2014年7月 同社 管理部門長 2017年1月 株式会社カントクグローバルコーポ レーション入社 管理部 部長 2018年8月 同社 生産本部 本部長 2020年7月 テクノホライゾン株式会社入社 東日本管理部 部長 2023年2月 当社入社 人事総務部 部長 2025年3月 当社取締役兼CHRO (現任)	3,200株
<p>【選任理由】 管理・人事総務部門での豊富な業務経験と知見を有しており、当社の事業拡大及び経営全般に対する適切な役割が期待できると判断したためです。</p>			
5	やまざき せいたろう 山崎 晴太郎 (1982年8月14日)	2006年4月 ビルコム株式会社入社 2008年10月 株式会社まくら (現 株式会社セイト ローデザイン) 設立 代表取締役 (現任) 2014年7月 当社取締役 2016年3月 株式会社セイトローデザイン金沢 取締役 (現任) 2019年2月 当社取締役兼CDO (現任) 2021年7月 株式会社エスプロ 設立 代表取締役 (現任) (重要な兼職の状況) 株式会社セイトローデザイン 代表取締役 株式会社エスプロ 代表取締役	78,200株
<p>【選任理由】 デザイン・設計分野及び会社経営で培った経験と知見を有し、また当社のコーポレートブランドを構築した実績から、今後も当社の事業拡大及び経営全般に対する適切な役割が期待できると判断したためです。</p>			

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	保有する 当社の株式数
6	ながさか ひでき 長坂 英樹 (1969年11月27日)	1994年5月 アンダーセン・コンサルティング (現アクセンチュア) 入社 1998年1月 アーサーアンダーセン税務事務所 (宇野紘一税理士事務所 / 現KPMG G税理士法人) 入所 2004年9月 株式会社モルガン・スタンレー・プ ロパティーズ・ジャパン (現・モル ガン・スタンレー・キャピタル株式 会社) 入社 2007年6月 KBツツキ株式会社 取締役 2013年1月 モルガン・スタンレー・キャピタル 株式会社 ヴァイスプレジデント 2017年8月 グローバル・トランザクション・ パートナーズ株式会社設立 代表取締役 (現任) 2019年3月 当社社外取締役 (現任) 2025年11月 株式会社オリバー 社外取締役 (現任) (重要な兼職の状況) グローバル・トランザクション・ パートナーズ株式会社 代表取締役	一株
【選任理由及び期待される役割の概要】 長年にわたり税務・会計分野で培った経験と知見を有し、当社の事業拡大及び経営全般に対する適切な役割が期待できると判断し、社外取締役として引き続き選任をお願いするものであります。			

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	保有する 当社の株式数
7	<p>おかもと ひでとし 岡本英利 (1956年6月7日)</p>	<p>1985年7月 日本コンピュータ開発株式会社 (現 株式会社アイネット) 入社 1990年3月 株式会社ソニープロキュアメントサ ービス (現 株式会社ソニー及びグル ープに吸収) 入社 1996年9月 株式会社エルテックス入社 1997年9月 同社取締役 2009年9月 同社専務取締役 2012年9月 同社取締役社長 2014年1月 株式会社オン・アンド・オン 設立、 代表取締役 (現任) 2015年7月 株式会社グリーンクロス 取締役 2020年3月 当社社外取締役 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況) 株式会社オン・アンド・オン 代表取締役</p>	<p>一株</p>
<p>【選任理由及び期待される役割の概要】 株式会社オン・アンド・オンの代表取締役を務められており、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。これまでの経験や知見をもとに、当社の経営を監督していただくとともに、当社の経営全般に助言を頂戴することによりコーポレート・ガバナンス強化に寄与していただくため、社外取締役として引き続き選任をお願いするものであります。</p>			

- (注) 1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 長坂英樹氏及び岡本英利氏は社外取締役候補者であります。
3. 長坂英樹氏及び岡本英利氏は、現在、当社の社外取締役であります。両氏の社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって長坂英樹氏が7年、岡本英利氏が6年となります。
4. 当社は、長坂英樹氏及び岡本英利氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低限度額としており、両氏の再任が承認された場合は、当該契約を継続する予定であります。
5. 当社は、当社全取締役、監査役を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該契約は、被保険者がその職務の執行に関して責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある争訟費用及び損害賠償金等を補填することとしており、保険料は全額当社が負担しております。各取締役候補者の再任が承認された場合には、引き続き当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。
6. 当社は、長坂英樹氏及び岡本英利氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。両氏の再任が承認された場合には、引き続き両氏を独立役員とする予定であります。
7. 「所有する当社の株式数」には、各候補者の役員持株会における持分株式数を含めておりません。

第2号議案 会計監査人選任の件

当社の会計監査人である有限責任 あずさ監査法人は、本総会終結の時をもって任期満了により退任されますので、新たに会計監査人の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の決定に基づいております。

また、監査役会がアーク有限責任監査法人を会計監査人の候補とした理由は、新たな視点での監査および機動的な監査が期待できることに加え、会計監査人として期待される専門性、独立性、品質管理体制並びに監査報酬を総合的に勘案した結果、適任であると判断したためであります。

会計監査人候補者は、次のとおりであります。

(2026年1月1日現在)

名 称	アーク有限責任監査法人		
事務所所在地	(主たる事務所) 東京都新宿区西新宿一丁目23番3号 廣和ビル		
沿 革	1975年4月1日 近畿第一監査法人を設立及び聖橋監査法人を設立 1982年8月17日 明治監査法人を設立 2004年3月3日 アーク監査法人を設立 2016年1月4日 明治監査法人とアーク監査法人が合併し、 明治アーク監査法人となる 2016年7月1日 聖橋監査法人と明治アーク監査法人が合併 2019年7月1日 アーク有限責任監査法人に名称変更 2020年7月1日 近畿第一監査法人とアーク有限責任監査法人が合併		
概 要	資 本 金	80百万円	
	構 成 人 数	代表社員	10名
		社員	41名
		公認会計士	68名
		公認会計士試験合格者	38名
		米国公認会計士	4名
		米国公認会計士試験合格者	2名
		ITその他専門職員	6名
		監査アシスタント	23名
		管理部門(一般職)	17名
合 計		209名	
監査会社等の数	131社		

以上

事業報告

(2025年1月1日から
2025年12月31日まで)

1. 会社の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当事業年度における我が国経済は、企業収益の回復を背景とした経済活動の正常化が進み、政府による積極財政への方針転換も相まって、緩やかな回復基調が続いております。一方で、長期金利や物価の上昇が個人消費に影響を与え、回復の力強さを欠いた状態が続いており、依然として予断を許さない状況が継続しております。

当社を取り巻く試作・開発市場は、EV（電気自動車）開発競争の加速途上であり、鋳造品に対しては複雑形状かつサイズの大型化の要求が顕著となっております。併せて、試作初期段階から品質の高さも求められるケースが散見されるようになりました。当社ではこれらの市場要求に対応すべく、大型鋳造品を量産まで提供する体制の確立に加え、高い品質での鋳造品提供のための生産技術の確立に注力してまいりました。

しかしながら、一部の鋳造部品においては、技術的難易度が高く、要求品質の確保に対して生産コストを想定以上に費やしており、セグメント利益の回復が遅れることとなりました。

このような状況下ではありますが、2025年12月期は第4四半期会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日）において、主に積極的な拡販施策を展開しておりました3Dプリンター事業セグメントのHEARTROID分野が伸びました。海外・国内の医療関係デバイスメーカーより、想定を上回る受注・売上を獲得しました。

この結果、当事業年度の経営成績は、売上高3,223,030千円（前期比4.9%増）、営業利益103,588千円（前期比17.6%増）、経常利益101,212千円（前期比17.7%減）、当期純損失については鋳造事業セグメントにおいて減損損失の計上をしたことで1,263,645千円（前期は当期純利益50,671千円）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

① 3Dプリンター事業

3Dプリンター事業におきましては、心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID」での積極的な販売促進活動が奏功し、当第4四半期会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日）では国内外の、デバイスメーカー・病院を中心にまとまった受注を獲得しました。

また、工業向け試作品を中心とした出力サービスは、期初より進めている造形バリエーションの拡張に加え、営業人員の増強・育成も進み、受注スピードの向上を図ることができたことで順調な推移となりました。

この結果、3Dプリンター事業の売上高は764,482千円（前期比21.3%増）、セグメント利益は241,395千円（前期比60.3%増）となりました。

② 鋳造事業

鋳造事業におきましては、国内外の自動車メーカー各社及びTier1（ティアワン）部品メーカーを中心としたEV関連部品の開発案件やFA分野での産業用ロボット向け大型鋳造品の試作ならびに補給部品案件の獲得が続きました。しかしながら新規性要素が強い一部の鋳造部品における、予定を上回る製造コストの発生に加え、製造技術の獲得についても時間を要した結果、業績の回復が遅れております。

設備面ではコンセプトセンター（長野県飯田市）への積極的な設備投資は控えつつも、大型鋳造部品への対応、量産専用工場化を見据えた生産体制への変更を進めることで、変化する需要の取り込みに向けた活動を継続しました。

この結果、鋳造事業の売上高は2,083,683千円（前期比6.9%減）、セグメント利益は87,772千円（前期比104.2%増）となりました。

③ CT事業

CT事業におきましては、次世代蓄電池分野を中心とした産業用CTの認知拡大を推進し、電池分野での展示会や、顧客企業内展示会への出展、セミナーの実施を積極的に行なう一方、スキャン体制の効率化を推進してまいりました。しかしながら、国内メーカーへのCT装置販売の実績が当初の予定を下回ったことや、全数検査・選別といったボリュームの大きいスキャン案件が少なかったことで、売上高・セグメント利益は前年を下回りました。

この結果、CT事業の売上高は374,864千円（前期比23.9%減）、セグメント利益は247,916千円（前期比32.5%減）となりました。

なお、当事業年度の販売実績を産業区分別に示すと次のとおりであります。

3Dプリンター事業

セグメント内産業区分	第34期 (2025年1月1日から2025年12月31日まで)		
	販売件数 (件)	販売金額 (千円)	比率 (%)
卸売業	455	359,226	47.0
精密機械・医療機械器具製造業	242	159,171	20.8
電気機械器具製造業	302	55,845	7.3
一般機械器具製造業	122	46,688	6.1
専門サービス業 (他に分類されないもの)	70	34,051	4.5
輸送用機械器具製造業	43	24,348	3.2
その他の製造業	192	20,802	2.7
教育	34	13,385	1.8
学術研究機関	24	8,608	1.1
その他	272	42,354	5.5
合計	1,756	764,482	100.0

鋳造事業

セグメント内産業区分	第34期 (2025年1月1日から2025年12月31日まで)		
	販売件数 (件)	販売金額 (千円)	比率 (%)
一般機械器具製造業	1,559	959,803	46.1
卸売業	344	412,833	19.8
輸送用機械器具製造業	178	400,691	19.2
鉄鋼業、非鉄金属製造業	81	126,754	6.1
電気機械器具製造業	100	71,497	3.4
金属製品製造業	13	50,760	2.4
自動車整備業、駐車場業	2	15,612	0.8
精密機械・医療機械器具製造業	19	12,691	0.6
娯楽業	9	11,400	0.6
その他	27	21,639	1.0
合計	2,332	2,083,683	100.0

CT事業

セグメント内産業区分	第34期 (2025年1月1日から2025年12月31日まで)		
	販売件数 (件)	販売金額 (千円)	比率 (%)
卸売業	175	134,962	36.0
一般機械器具製造業	72	58,240	15.5
輸送用機械器具製造業	62	44,791	12.0
電気機械器具製造業	93	40,837	10.9
専門サービス業 (他に分類されないもの)	55	37,763	10.1
精密機械・医療機械器具製造業	20	12,140	3.2
その他の製造業	29	10,100	2.7
鉄鋼業、非鉄金属製造	27	6,144	1.6
金属製品製造業	8	5,250	1.4
その他	72	24,633	6.6
合計	613	374,864	100.0

- (注) 1. 産業区分に関しては、株式会社帝国データバンクのTDB産業分類表の中分類に従っております。
 2. 販売件数、販売金額及び比率は、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれておりません。

② 設備投資の状況

当事業年度において実施いたしました当社の設備投資の総額は120,692千円で、その主なものは次のとおりであります。

イ. 当事業年度に完成した主要設備

(鑄造事業 コンセプトセンター)

8期棟ピット他 追加工事

8期棟用ルームブラスト

8期棟用低圧鑄造炉

ロ. 当事業年度において継続中の主要設備の新設、拡充

該当事項はありません。

ハ. 当事業年度に実施した重要な固定資産の売却、撤去、滅失

該当事項はありません。

③ 資金調達の状況

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と650,000千円の当座貸越契約及び財務基盤の安定を図るため取引銀行1行と300,000千円のコミットメントライン契約を締結しており、当事業年度末における借入実行残高は50,000千円であります。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第 31 期 (2022年12月期)	第 32 期 (2023年12月期)	第 33 期 (2024年12月期)	第 34 期 (当事業年度) (2025年12月期)
売上高 (千円)	2,995,470	3,640,002	3,072,417	3,223,030
経常利益 (千円)	381,371	533,438	122,937	101,212
当期純利益 又は 当期純損失 (△)	247,541	363,695	50,671	△1,263,645
1株当たり当期純利益 又は 1株当たり当期純損失(△)	46.66	67.87	9.08	△227.76
総資産 (千円)	4,332,013	4,980,604	4,701,386	2,863,023
純資産 (千円)	2,457,320	2,861,174	2,901,740	1,647,455
1株当たり純資産 (円)	461.87	519.90	524.30	296.64

(注) 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社の状況
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況
該当事項はありません。

(4) 対処すべき課題

当社が、事業推進上重要課題と認識している点は、以下のとおりであります。

(3Dプリンター事業)

① 心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID」の普及

当社は、心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID」においては、国内外医療機関や関連商材を取扱う商社でTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）やCORONARY（冠動脈治療分野）のトレーニングモデルを中心とした旺盛な需要を背景に積極的な販売推進に取り組んでまいりました。医療現場における新たな手技・症例に対応したトレーニングシステムの開発を続け、さらなる市場拡大に向けた人材確保や、積極的な国内外への営業活動に注力し、製品の普及を図ることで収益拡大に努めてまいります。

また、「全ての患者さんが安全に心臓カテーテル治療を受けられることを目指す」をスローガンに、心臓疾患に留まらず、他領域のカテーテル治療にも対応できるトレーニングシミュレーターのプラットフォームを目指し、国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科と協力し、研究開発を継続してまいります。

② 樹脂3Dプリンターサービスの普及

当社は、EOS Electro Optical Systems Japan株式会社と協同で樹脂3Dプリンター関連市場の拡大に向けたAMサービスを提供するほか、CMET（シーメット）株式会社、ならびに上海聯泰科技股份有限公司（UnionTech/ユニオンテック）の取扱店である株式会社日本未来技研と連携して、3Dプリント技術の日本国内での普及に取り組んでおります。樹脂によるAMサービスは、日本国内では黎明期であることに加え、3Dプリント技術に対する顧客からの要求、期待は高まりを続けております。顧客への3Dプリント技術の普及には、偏りのない3Dプリント装置や造形の知識が必要であり、過不足のない提案が必要不可欠であります。当社はEOS製ハイエンド樹脂3Dプリンター導入の他にも、様々な樹脂を用いた積層品の提案を通じて、あらゆる業界・分野に対して積極的な営業活動を行うことで市場の開拓を進め、売上拡大に努めてまいります。

(鑄造事業)

① 試作品大型化への対応

当社は主として自動車産業向けの部品を中心とした多品種・小ロットの試作鑄造品の製造を得意領域として、鑄造事業の拡大を進めてまいりましたが、顧客のEV（電気自動車）開発の本格化に伴い、試作部品の軽量・モジュール（機能集約）化が進み、大型の試作鑄造部品需要が増加しております。当社ではこのような顧客ニーズの変化に対応し、更には競合他社が追従できない大型かつ高品質の砂型鑄造品生産を実現するため、生産工場の拡張検討や既存の生産工場における設備の導入・改変も含めた大型化への対応を進めてまいります。また、同時にこれら大型試作鑄造部品と量産鑄造部品の受注拡大に向けた営業活動も強化してまいります。

② 量産鑄造部品の効率的な生産体制確立

当社は主として、顧客の研究・開発部門を中心に、試作から少量量産品の製造を行ってまいりましたが、アルミニウム、マグネシウムによる薄肉鑄造技術や製品品質が顧客から支持され、量産用鑄造部品の受注生産も行っております。量産品製造では、効率的な製造方法や品質不具合を極限まで減少することで歩留まり改善を進めるなど、製造課題の認識が試作品の場合と異なる部分も多いことから、当社では「トヨタ生産方式」のノウハウを導入し、最小限の人員で最大の生産量を実現できるよう、量産品製造の効率化を進めております。また、マグネシウムを中心としたダイカスト工法領域を得意とする株式会社STG（大阪府八尾市）と事業拡張に向けた協議を行い、顧客製品の開発プロセスに寄り添った柔軟な対応、安定的な供給体制の確立に注力してまいります。

③ 事業ポートフォリオの分散化

当社の主要な顧客は自動車メーカーやその関連企業、また一部の産業用ロボットメーカーが中心で構成されております。これらの顧客は、製品軽量化のため、アルミニウムやマグネシウムを用いた部品の研究・開発を積極的に推進しており、当社はこれら顧客のニーズに適した鑄造部品の提案を行っております。今後、顧客業種の拡張を進めることで、業種・業界の浮沈に左右されない安定的な業績を維持できるよう進めてまいります。

(CT事業)

検査・測定サービスの市場開拓及び技術普及

当社は、産業用CTの全ての領域（ミリ／マイクロ／ナノフォーカス／高エネルギーX線）を顧客ニーズに応じて使い分け、ソフト面、ハード面ともに国内最高水準の検査・測定サービスを提供しております。

さらなる売上高の拡大には、スキャン対応サイズ・バリエーションの拡幅や、当社の産業用CTによる検査・測定サービス技術を新規分野へ普及させることが必要不可欠であります。当社では、産業用CT装置保有先との業務提携や、WEBによるセミナー、展示会への出展をはじめとした営業活動に加え、新たなニーズの発掘のため、社内・外の関係者との情報共有や連携の強化など、市場での認知度を高めることで技術普及を図りつつ、きめの細かいサービス体制の拡充を図ることで売上高拡大に努めてまいります。

(全社)

① 人材の確保、育成

変化する事業環境に最適な企業構造を保ちつつ、長期的な成長を担保するために、優秀な人材の確保、育成が急務であります。当社では、3Dプリンター事業と鑄造事業及びCT事業、また製造部門と営業部門を横断できるゼネラリスト型の人材と、製造業特有の技術・知識に長けた職人型の人材の両面の育成が課題であり、これらに関し中長期的視野で取り組んでまいります。

② ブランドの知名度向上

当社が完成品メーカーの単なる下請けではなく、3Dプリンターと鋳造工法による高品質なものづくりを行うことや、産業用CTによる検査・測定において、対等なパートナーとして主体的に関わっていくためには、製品の品質やサービス等に裏付けられたコーポレートブランドを確立していくことが重要と考えております。そのため、営業活動におけるサービスや採用活動において、費用対効果を見極めながら広報宣伝やIR、PR活動を推進させることを課題と認識し、工場の設計からウェブサイトや各種パンフレットに至るまで一貫したコンセプトで作成し、コーポレート・アイデンティティの構築とそのブランディングに取り組んでまいります。

(5) 主要な事業内容（2025年12月31日現在）

事業区分	事業内容
3Dプリンター事業	①3Dプリンターによる試作品、各種部品・商品の製造、販売 ②3DプリンターによるAM (Additive Manufacturing) サービス ③心臓カテーテルシミュレーター『HEARTROID (ハートロイド)』等の製造、販売 ④医療用モデル (実物大モデル) のデータ編集及び製造、販売
鋳造事業	アルミニウム、マグネシウムを用いた砂型鋳造法による試作品、各種部品・商品、量産用鋳造部品の製造、販売
CT事業	①産業用CTによる検査・測定サービス ②産業用CT及び関連サービスの販売 ③産業用CT用ソフトウェアの販売

(6) 主要な営業所及び工場（2025年12月31日現在）

名称	事業区分	場所
本社	—	神奈川県横浜市港北区
本社工場	3Dプリンター事業、CT事業	同上
コンセプトセンター	鋳造事業、CT事業、3Dプリンター事業	長野県飯田市
ミーリングセンター	鋳造事業	静岡県浜松市浜名区

(7) 使用人の状況（2025年12月31日現在）

事業区分	使用人数	前事業年度末比増減
3Dプリンター事業	24 (7)名	8 (△1)
鑄造事業	90 (15)	△7 (△1)
CT事業	7 (1)	△1 (1)
全社（共通）	17 (3)	△4 (-)
合計	138 (26)	△4 (△1)

- (注) 1. 使用人数は就業員数（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、パート及び嘱託社員は（）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社（共通）として記載されている使用人数は、特定の事業に区分できない管理部門及び企画部門に所属しているものであります。

(8) 主要な借入先の状況（2025年12月31日現在）

借入先	借入残高
株式会社三井住友銀行	409,000千円
飯田信用金庫	153,946千円
日本生命保険相互会社	100,000千円

(9) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 株式の状況 (2025年12月31日現在)

(1) 発行可能株式総数 11,840,000株

(2) 発行済株式の総数 5,598,500株 (うち自己株式44,800株)

- (注) 1. 新株予約権の行使により、発行済株式の総数は800株増加しております。
2. 譲渡制限付株式報酬制度の対象者への割当により、自己株式は18,400株減少しております。

(3) 株主数 3,934名

(4) 大株主

株主名	持株数	持株比率
渡邊大知	1,269,400株	22.86%
鈴木浩之	408,200	7.35
渡邊商事株式会社	214,000	3.85
株式会社SBI証券	161,903	2.92
楽天証券株式会社	137,900	2.48
JMC役員持株会	78,900	1.42
山崎晴太郎	78,200	1.41
JPMorgan証券株式会社	74,500	1.34
JMC従業員持株会	72,000	1.30
山田智則	48,000	0.86

- (注) 1. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2. 取締役の「持株数」には、役員持株会における持分株式数を含めておりません。

(5) 当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に交付した株式の状況

当社は、次のとおり、株式報酬として譲渡制限付株式を交付しております。

交 付 対 象 者	交 付 株 式 数	交 付 者 数
取締役（社外取締役を除く）	15,000株	5名

（注）当社の株式報酬の内容につきましては、「3. 会社役員 の 状況」の「（4）取締役及び監査役の報酬等」に記載しております。

(6) その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

3. 会社役員 の 状況

(1) 取締役及び監査役の状況 (2025年12月31日現在)

会社における地位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長兼CEO	渡 邊 大 知	
専務取締役兼COO	鈴 木 浩 之	
取締役兼CFO	篠 崎 史 郎	
取締役兼CHRO	山 崎 浩	
取締役兼CDO	山 崎 晴 太 郎	株式会社セイトロウデザイン 代表取締役 株式会社エスプロ 代表取締役
取 締 役	長 坂 英 樹	グローバル・トランザクション・パートナーズ株式会社 代表取締役
取 締 役	岡 本 英 利	株式会社オン・アンド・オン 代表取締役
常 勤 監 査 役	山 下 芳 生	
監 査 役	村 田 真 一	兼子岩松法律事務所 弁護士 株式会社プラザホールディングス 社外取締役 (監査等委員) シュッピン株式会社 社外取締役 株式会社クロスフォー 社外取締役 (監査等委員) 株式会社坪田ラボ 社外監査役
監 査 役	増 田 光 利	公認会計士増田会計事務所 所長 株式会社えいえん堂 代表取締役

- (注) 1. 取締役長坂英樹氏及び岡本英利氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役山下芳生氏、村田真一氏及び増田光利氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 常勤監査役山下芳生氏は、金融機関の支店長を歴任する等、金融法務に関して幅広い知見を有していることから、高い監督能力を期待できると判断しております。当社との間には、特記すべき利害関係はありません。
4. 監査役村田真一氏は、弁護士であり、金融商品取引法、会社法等、法律に関する専門的な知識を有しているため、法務に関して高い監督機能を期待できると判断しております。当社との間には、特記すべき利害関係はありません。
5. 監査役増田光利氏は、公認会計士として、財務・会計及び税務に精通し、高い専門性と豊富な知見を有しております。これまで培われてきた経験は当社の管理体制の強化に寄与するものと判断しております。当社との間には、特記すべき利害関係はありません。
6. 当社は、社外取締役長坂英樹氏及び岡本英利氏並びに社外監査役山下芳生氏、村田真一氏及び増田光利氏について、株式会社東京証券取引所が確保を義務づける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員である旨の独立役員届出書を提出しております。

7. CEOはChief Executive Officer（最高経営責任者）であり、経営全般に関する事項を管掌しております。
8. COOはChief Operating Officer（最高執行責任者）であり、事業全般に関する事項を管掌しております。
9. CFOはChief Financial Officer（最高財務責任者）であり、財務・経理業務全般に関する事項を管掌しております。
10. CHROはChief Human Resource Officer（最高人事責任者）であり、人事総務担当取締役として人事・総務関連業務全般に関する事項を管掌しております。
11. CDOはChief Design Officer（最高デザイン責任者）であり、デザイン、ブランド・マネジメント、コミュニケーション戦略に関する事項を管掌しております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、各社外取締役及び各社外監査役との間で、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役もしくは監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

(3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、全ての取締役及び監査役を被保険者とした、会社法第430条の3第1項の規定に基づく役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。

当該契約の内容の概要は、以下のとおりであります。

- イ. 会社訴訟、第三者訴訟、株主代表訴訟等により、被保険者が負担することとなった争訟費用及び損害賠償金等を填補の対象としております。
- ロ. 被保険者の職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置として、被保険者による犯罪行為等に起因する補償等については填補の対象外としております。
- ハ. 当該契約の保険料は全額当社が負担しております。

(4) 取締役及び監査役の報酬等

① 当事業年度に係る報酬等の総額

区 分	員 数	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)		
			基本報酬	賞与	非金銭報酬等
取 締 役 (うち社外取締役)	7 名 (2)	118,791 (7,200)	111,450 (7,200)	－ (－)	7,341 (－)
監 査 役 (うち社外監査役)	3 (3)	13,200 (13,200)	13,200 (13,200)	－	－
合 計 (うち社外役員)	10 (5)	131,991 (20,400)	124,650 (20,400)	－ (－)	7,341 (－)

② 当事業年度に支払った役員退職慰労金

該当事項はありません。

③ 非金銭報酬等の内容

取締役(社外取締役を除く)が株式保有を通じて株主との価値共有を高めることにより、企業価値向上を図るために、譲渡制限付株式を交付しております。譲渡制限付株式の付与のための報酬限度額は、2019年3月27日開催の第27回定時株主総会において年額120百万円以内(社外取締役は除く)と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の社外取締役を除く取締役の員数は4名です。

④ 取締役及び監査役の報酬等について株主総会の決議に関する事項

取締役及び監査役の報酬は、2014年7月31日開催の第22回定時株主総会において、取締役の報酬限度額を年額180百万円以内(うち社外取締役分50百万円以内)、監査役の報酬限度額を年額30百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は4名、監査役の員数は1名です。

⑤ 取締役の個人別報酬等の内容に係る決定方針

当社は役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めており、その内容は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針としております。

個人別報酬は、取締役会の委任決議に基づき代表取締役社長兼CEO渡邊大知が取締役の個人別の報酬額の具体的内容を決定しております。これらの権限を委任した理由は、当社全体の業績を俯瞰し、各取締役の評価を行うには代表取締役が最も適しているからであります。取締役会は、当該権限が客観性及び公正性が確保された状態で行使されていることを確認しており、その内容が決定方針に沿うものであると判断しております。

各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

- ⑥ 社外役員が親会社等又は親会社等の子会社等から受けた役員報酬等の総額
該当事項はありません。

(5) **社外役員に関する事項**

- ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・社外取締役 長坂英樹氏は、グローバル・トランザクション・パートナーズ株式会社 代表取締役であります。
当社と兼職先との間には特別の利害関係はありません。
- ・社外取締役 岡本英利氏は株式会社オン・アンド・オン 代表取締役であります。
当社と兼職先との間には特別の利害関係はありません。
- ・社外監査役 村田真一氏は、兼子岩松法律事務所 弁護士、株式会社プラザホールディングス 社外取締役（監査等委員）、シュッピン株式会社 社外取締役、株式会社クロスフォー社外取締役（監査等委員）及び、株式会社坪田ラボ 社外監査役であります。
当社と各兼職先との間には特別の利害関係はありません。
- ・社外監査役 増田光利氏は公認会計士増田会計事務所 所長及び、株式会社えいえん堂 代表取締役であります。
当社と各兼職先との間には特別の利害関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

		出席状況及び発言状況及び 社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
社外 取締役	長 坂 英 樹	当事業年度に開催された取締役会13回の全てに出席いたしました。経営者としての豊富な経験を有しており、税務・会計分野に関する高い専門性と幅広い知見から当社経営に対して有用な助言・提案を期待されており、在任期間中における同氏の助言・提案等によって当社の経営体制がさらに強化されたものと判断しております。
社外 取締役	岡 本 英 利	当事業年度に開催された取締役会13回の全てに出席いたしました。経営者としての豊富な経験を有しており、IT分野に関する高い専門性と幅広い知見から当社経営に対して有用な助言・提案を期待されており、在任期間中における同氏の助言・提案等によって当社の経営体制がさらに強化されたものと判断しております。
社外 監査役	山 下 芳 生	当事業年度に開催された取締役会13回の全てに、監査役会13回の全てに出席いたしました。出席した取締役会において、金融法務の専門的見地から適宜発言を行っております。また、監査役会において、監査役相互の意見の内容や根拠を検討し、積極的に発言を行うなど、当社経営の透明性・公正性の確保及びコーポレートガバナンスの強化に重要な役割を果たしております。
社外 監査役	村 田 真 一	当事業年度に開催された取締役会13回の全てに、監査役会13回の全てに出席いたしました。出席した取締役会において、主に金融商品取引法、会社法等に関し、弁護士としての専門的見地から適宜発言を行っております。また、監査役会において、当社のコンプライアンス体制等について適宜、必要な発言を行っております。
社外 監査役	増 田 光 利	当事業年度に開催された取締役会13回の全てに、監査役会13回の全てに出席いたしました。出席した取締役会において、主に公認会計士としての専門的な知識・経験を踏まえ、適宜発言を行っております。また、監査役会において、当社の経理システム並びに内部統制について適宜、必要な発言を行っております。

4. 会計監査人の状況

(1) 名称 有限責任 あずさ監査法人

(2) 報酬等の額

	報 酬 等 の 額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	36,000千円
当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	36,000千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、会計監査人を解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

5. 株式会社の支配に関する基本方針

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針については、特に定めておりません。

貸借対照表

(2025年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,295,686	流動負債	787,872
現金及び預金	425,004	買掛金	82,943
受取手形	450	短期借入金	50,000
電子記録債権	113,315	1年内返済予定の長期借入金	326,012
売掛金	499,793	リース債務	44,198
商品及び製品	29,700	未払金	167,332
仕掛品	79,480	未払費用	3,410
原材料及び貯蔵品	99,105	未払法人税等	42,972
前払費用	47,295	契約負債	31,732
その他	1,944	預り金	7,409
貸倒引当金	△404	製品保証引当金	877
固定資産	1,567,336	その他	30,985
有形固定資産	1,462,334	固定負債	427,695
建物	930,544	長期借入金	286,934
構築物	107,568	リース債務	42,043
機械及び装置	173,580	資産除去債務	90,498
車両運搬具	645	繰延税金負債	8,220
工具、器具及び備品	23,429	負債合計	1,215,568
土地	166,746	(純資産の部)	
リース資産	51,796	株主資本	1,647,455
建設仮勘定	8,022	資本金	817,733
無形固定資産	31,589	資本剰余金	804,855
借地権	1,369	資本準備金	804,733
ソフトウェア	10,531	その他資本剰余金	122
ソフトウェア仮勘定	259	利益剰余金	46,385
特許権	18,574	利益準備金	1,894
その他	854	その他利益剰余金	44,491
投資その他の資産	73,412	繰越利益剰余金	44,491
出資金	10	自己株式	△21,520
長期前払費用	17,855	純資産合計	1,647,455
その他	55,546	負債純資産合計	2,863,023
資産合計	2,863,023		

損益計算書

(2025年1月1日から
2025年12月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	3,223,030
売上原価	2,186,386
売上総利益	1,036,643
販売費及び一般管理費	933,055
営業利益	103,588
営業外収益	
受取利息	478
補助金収入	1,500
受取保険金	369
為替差益	2,550
受取補償金	205
その他	2,214
合計	7,318
営業外費用	
支払利息	8,723
コミットメントファイ	223
その他	746
合計	9,693
経常利益	101,212
特別利益	
固定資産売却益	1,635
特別損失	
固定資産除却損失	4,562
減損損失	1,319,409
合計	1,323,972
税引前当期純損失	1,221,124
法人税、住民税及び事業税	32,997
法人税等調整額	9,524
当期純損失	1,263,645

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2026年2月12日

株式会社 JMC
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
横浜事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 會田大央
指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川口靖仁

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社JMCの2025年1月1日から2025年12月31日までの第34期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した

監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

当監査役会は、2025年1月1日から2025年12月31日までの第34期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。
また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

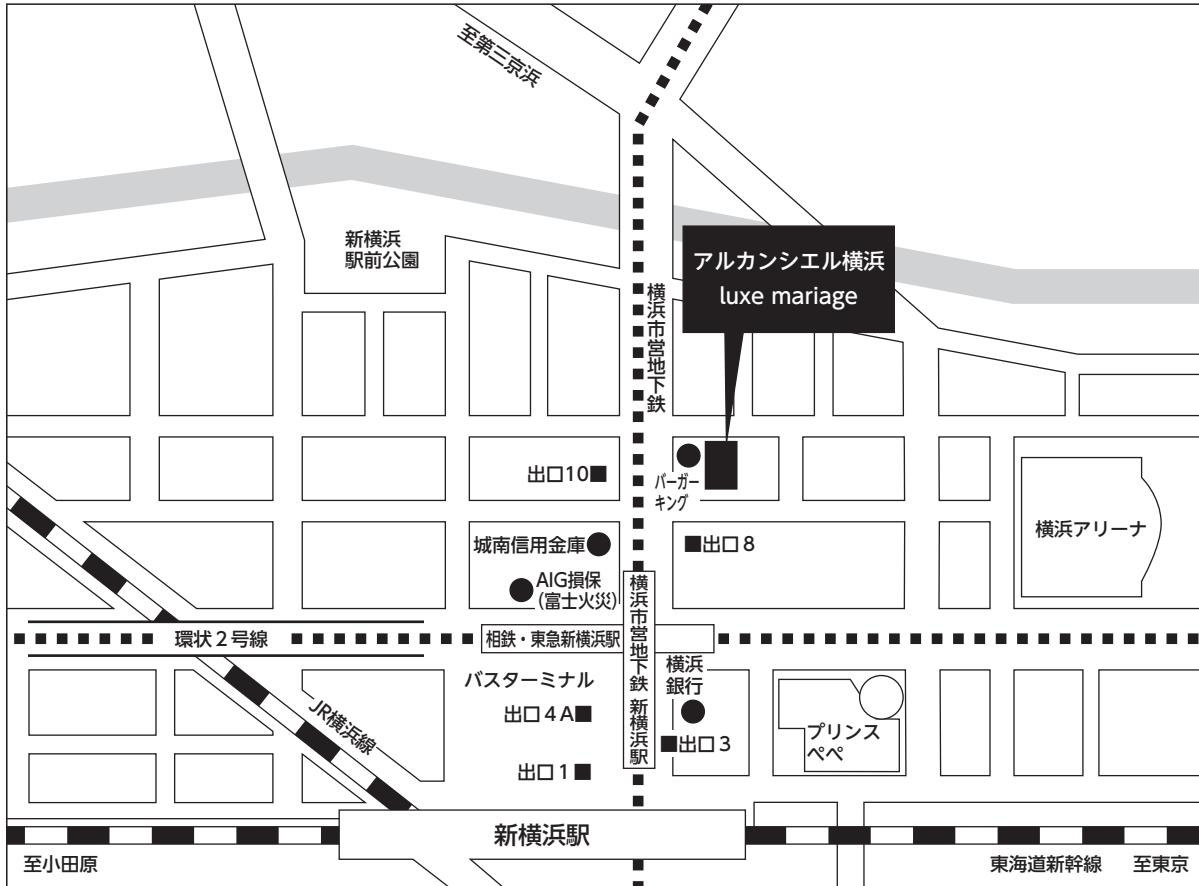
2026年2月13日

株式会社 J M C 監査役会
常勤社外監査役 山下芳生 ⑩
社外監査役 村田真一 ⑩
社外監査役 増田光利 ⑩

以上

株主総会会場ご案内図

神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-8
アルカンシエル横浜 luxe mariage 6階 ルミエール
TEL 045-475-5670
<https://www.arcenciel-g.jp/yokohama/>



JR東海道新幹線・JR横浜線 「新横浜駅」北口より徒歩5分

横浜市営地下鉄・東急線・相鉄線「新横浜駅」10番出口より徒歩2分

※お車で越しの場合は、近隣の有料駐車場をご利用いただくことをあらかじめご了承ください。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。